

西濃農林事務所の普及活動状況 令和6年3月29日現在

今月の重点活動

■土地利用型作物 土地利用型営農組織の法人化に向けて

輪之内町では、土地利用型農業の担い手である営農組織の法人化へ向けた打ち合わせを、輪之内町役場、ぎふアグリチャレンジ支援センター、JAにしみの、農林事務所の職員を交えて活発に行っている（3月2日：下大上営農組合、3月16日：楡俣北部営農組合、3月19日：海松新田営農組合）。

打合せ内容は、法人化に伴う資産の移行方法、定款・事業目論見書づくりなど、それぞれの組織の進度に合わせている。

また、3月24日には、(農)里ファームの設立総会が開催され、設立趣意書、定款などが説明され承認された。なお、登記は5月9日を予定している。

農林事務所では、今後も集落営農組織の法人化へ向けて継続支援を行っていく。



【設立総会の様子】

西濃の農業・農村を支える人材育成

■女性農業経営アドバイザー 令和5年度西濃ブロック総会が開催される

3月11日に、令和5年度西濃ブロック総会が大垣市内で開催された。農林事務所は、事務局として総会の運営にあたった。総会では、各議案の説明が滞りなく行われ、全議案が承認された。

今年度、西濃管内では3名が退会となったが、退会される方々からは、アドバイザー活動を通して、人とのつながりが広がり、様々な知見を得ることができ、自身の成長や経営改善にも活かされたとの話をいただき、大変感慨深いひと時となった。

総会では、次年度の予算として新たに西濃ブロックの活動をPRするチラシ作成予算も承認された。

特に、新規会員獲得が課題となっていることから、農林事務所では引き続きアドバイザーの活動を支援していく。



【総会の様子】

安心で身近な「西濃の食」づくり

■小麦・大豆 県麦作並びに豆類経営改善共励会で表彰

令和5年度「岐阜県麦作共励会」と「岐阜県豆類経営改善共励会」表彰式が、3月14日、岐阜県JA会館で開催された。西濃地域からは、岐阜県麦作共励会の最優秀賞に高田グリーン(株)、優良賞に(農)平営農が表彰された。さらに、豆類経営改善共励会では、最優秀賞に(農)三郷、優秀賞に(農)松木ファームが選出され、表彰状が授与された。

西濃地域は土地利用作物の一大産地である。農林事務所では、今後も効率的な経営と高品質な小麦・大豆生産に向けて支援していく。



【受賞されたみなさん】

■有機農業 西濃地区有機農業推進プロジェクトチーム会議（第3回）

3月15日、神戸町のJAにしみの神戸出荷センターにて、農林事務所主催の第3回有機農業推進プロジェクトチーム会議を開催した。会議には、営農モデル実証ほ(水菜)生産者・JAにしみの営農担当・神戸町役場・県農産園芸課有機担当が出席し、今年度の実証ほの結果や次年度の有機推進に向けた取り組みなどについて話し合った。

年間3作行った実証について、収量性や害虫防除では良い結果が得られ、収穫物の内容成分(ビタミンC等)も化成肥料の施肥より優れる傾向が見られた。一方、雑草については太陽熱消毒だけでは抑えきれず、次年度に追加の手段(微生物資材投入)を実証することとなった。

また、6年度中に、有利販売の取り組みとして、有機野菜サラダフェス(5月中旬予定)への食材提供を行う計画とした。有機面積拡大のための補助事業活用(防蛾灯導入等)についても検討した。農林事務所として、当プロジェクトチームの活発な活動を支援していく。



【会議の様子】

西濃農畜産物のブランド展開

■梨 梨の高接ぎ研修会行う

3月14日、大垣市ナシ生産連絡協議会、農林事務所主催で大垣市ナシ生産連絡協議会会員、および西濃ナシ倶楽部を対象に、梨の高接ぎ研修会を開催した。

この研修は、令和5年8月30日から中国花粉の輸入が停止したことを受け、受粉樹を少しでも増やすことを目的に開催した。

当日は農業経営課の西垣農業革新支援専門員を講師に招き、新高を中間台木として、穂木となる新興を数種類の方法で高接ぎの実演を行った。

梨農家が高接ぎ技術を習得することで、次年度以降も安定した花粉の確保、ひいては安定した梨生産が行われることが期待される。



【研修会の様子】

■きゅうり 海津胡瓜部会 半促成・越冬栽培研究会の開催

JAにしみの海津胡瓜部会は、3月4日に半促成・越冬栽培研究会を、JAにしみの海津営農センター(深浜)で開催した。

なお、研究会の前に、種苗業社、JA、農林事務所等関係者ではほ場巡回を行い、各作型の生育状況について確認した。

研究会では、種苗業者から生育や品種特性を踏まえて、春に向けた栽培管理について説明が行われた。西濃農林事務所からは、天候の推移とそれに伴う生育状況、今後、気を付ける病害虫、一斉防除、独自GAPの点検から見えてきた改善点、ぎふ清流GAP評価制度と変更点について説明をした。

6年産は、天候の変動が大きく、かつ急変することが度重なり、特に2月中下旬の長雨・寡照と気温上昇により、収穫量は大幅に減少した。3月以降は日射量の増加に伴い徐々に回復基調となり、3月下旬以降、出荷量の増加が期待されるため、引き続き支援を行っていく。



【ほ場巡回の様子】